

図書館だより

今月の絵柄：「ぼくのくつしたはどこ？」

マライケ・テン・カーテ（ほるぷ出版）



発行 滝上町図書館
電話 0158-29-3735

小檜山博 文学のふるさと 読書感想文コンクール



滝上町が育んだ郷土出身作家の作品に中学生、高校生が親しむ機会になればと開催した読書感想文コンクールでしたが、今年は応募総数3通と大変さびしい結果となりました。審査にあたり、小檜山さんから心温まる講評をいただきましたのでご紹介します。

【中学生の部】 西村史さん「風少年を読んで」

本を読んで強い印象が残るものがあるということは、感受性が豊かなことで、その部分は大切にされることを望みます。また、人間が生きるうえで最も大切なことは人に好かれることなので、そのためにはまず自分のほうから人を好きになる心がけが大切だと思います。

【高校生の部】

氏川知英さん「風少年を読んで思い出したこと」

風少年はぼくの自伝的小説というふうには言われませんが、小説はもちろん、作り話なので、かに事実の体験が多い内容だとしても、その中に1%の遠大な主題の虚構を作ることによって、小説的真實を想像することになると考えるわけです。

富山岳人さん「風少年を読んでみて」

一方的な自分のほうの気持ちだけで、むやみに相手の心の中に立ち入らないようにして、自分の感情をおさえるのが、相手にたいする思いやり、好意を大切に思うこととする複雑な主人公のありようを、一応、富山さんはとらえてくださっているように思います。

【大人の方も読んでみませんか「風少年」】

あらすじ 舞台はわが町、滝上町。両親は会津から中雄柏へ入植した農民。勉強より家業が大事、勉強は怠け者がするものだという両親のもと育つ「ぼく」は学校から帰るとすぐ畑仕事にかかる。北海道の厳寒の冬を家族で支え合いながら、命がけで生きる。中学2年生になるともっと大きな学校で勉強したいと、中雄柏の中学校から滝上中学校に転校する。それに滝上には、憧れの美根子もいた。淡い初恋、そしてあたたかい教師との出会い、性への目覚めなど、少年がまっすぐに逞しく成長していく姿を描きます。

こどもの本の新刊が
たくさん入りましたよ！

ホームページで図書館に
入っている本を検索でき
ます。



<http://lib.town.takinoue.hokkaido.jp>

新 刊 案 内

(小説)

- ☆杉下右京のアリバイ 碓卯人
- ☆壊れる心 堂場瞬一
- ☆岳飛伝 天雷の章 10 北方謙三
- ☆十津川警部 七十年後の殺人 西村京太郎
- ☆暗殺 佐伯泰英
- ☆魔法使いと刑事たちの夏 東川篤哉
- ☆水に抱かれて紡ぐ夢 小椋杏
- ☆まるまるの毬 西條奈加
- ☆銀翼のイカロス 池井戸潤
- ☆後妻業 黒川博行
- ☆明日の子供たち 有川浩
- ☆平凡 角田光代
- ☆ハケンアニメ！ 辻村深月
- ☆それは秘密の 乃南アサ
- ☆クラスメイツ 前期・後期 森絵都
- ☆修羅走る関ヶ原 山本兼一
- ☆清流の宴 石川溪月

(その他)

- ☆まんがでわかる 7つの習慣 小山鹿梨子
- ☆99歳ちりつもばあちゃんの幸せの道 したなかも
- ☆袴田事件 山本徹美
- ☆世界サメ図鑑 スティーブ・パーカー
- ☆家づくりの解剖図鑑 大島健二
- ☆ブルーインパルス科学 赤塚聡
- ☆つまみ 飛田和緒
- ☆富士百句で俳句入門 堀本裕樹
- ☆自転車に冷たい国ニッポン 馬場直子
- ☆火薬のはなし 松永猛裕
- ☆歩いて行く二人 岸恵子・吉永小百合
- ☆その「不調」、あなたの好きな食べものが原因だった？ 澤登雅一
- ☆宇宙大百科 マーティン・リース
- ☆北欧のかわいい家と雑貨をめぐる旅 「LOVE! 北欧」編集部

『その「不調」、あなたの好きな食べものが原因だった？』
遅発性フードアレルギー『澤登雅一(ディスカバー21)』
 私はなんでも食べられるし好き嫌がなく健康に過ごしてきましたが、30代の頃から時々、激しい腹痛、頭痛で目が覚める、熱もないのに一日中やる気が出ないことがある。何となく食べものが原因ではないかと思いい、食べもの日記をつけて、私の場合、カレーライス、シチュー、天ぷら、フライ、乳製品を食べると一日から二日後にその症状がでることがわかりました。これを食べると頭が痛くなると言っても理解されないようでした。血液検査で簡単にわかるようですが、日本人の八割が何らかの食物アレルギー持っているそうです。図書館の新刊の中にこの本を見つけて是非皆さんに読んでほしいと思いました。
 (M・M)



ふれあいひろば編集委員がお送りする

読書三得



『きみまる「夫婦川柳」傑作選』

綾小路きみまる(小学館)

題名の通り、毒舌きみまるさんの川柳です。字が大きくてメガネなしで読めます。解説もステージを見ているような痛快さです。おすすめ年代はやはり中高年、若い方にはちよつと：何度読んでも同じところが同じように可笑しくて、分かっているのに笑ってしまう、そんな中身です。きみまるさん、最近歌と踊りも始めました。恐るべき60代です。

